

The 46th SUZUKI METHOD GRAND CONCERT

輝け21世紀の主役たち



27 March 2000

世界の夜明けは
子供から

篠一



第48回卒業式(午後1時)
第46回グランドコンサート
2000.3.27(月)午後2:00開演
日本武道館(東京・九段)

後援
東京都教育委員会 毎日新聞社 読売新聞社
日本経済新聞社 産経新聞社 東京新聞 TBS
テレビ朝日 テレビ東京

目次	頁
特別企画 座談会	1
第45回グランドコンサート全景写真	6
ご挨拶	8
プログラム	10
プログラムノート(曲目解説)	12
1999年行事アルバム	14
ISAからのメッセージ・コンサートスタッフ	17

音楽を通じて
表現する楽しさを伝え、
豊かな心を育て、
親子のふれあいを応援したい

鈴木鎮一先生が確立されたスズキメソッドも、会長豊田先生のもとで新時代を迎えています。その新しい節目である2000年に、理事の方々を交え、これからのスズキメソッドの方向性と今後の抱負について、忌憚なく話し合っていました。



ニュー・スズキメソッド

力を合わせて再構築
新しい流れをつくりたい

小林 豊田会長、理事の先生方にも、自己紹介も含めて、それぞれの抱負をお聞かせ願えればと思いますが…。

豊田 これからの才能教育は、今までの素晴らしい発展した時代を踏まえて、ただ、過去の引き継ぎではなく、みなさんと一緒に知恵を絞っていく時代がきたと考えております。たくさんの子供たちに、このスズキメソッドの理念やノウハウを伝えていくために、理事の方々の力を存分にお借りしながら、新しい才能教育の世界というものを育てていきたいと考えております。みなさまがた、どうぞよろしく願いいたします。

中嶋 確かに、これまでの才能教育の素晴らしい蓄積というものについては、誰も異存のないところだと思うんです。しかし、どういう形でその魅力をアピールし、未来に残していくか、それが大きな問題としてあると思います。やはり、ただ、蓄積の

かつ変化がはげしい時代になっています。時代の変化にどう対処するかについては才能教育も例外ではありません。鈴木先生亡きあと新しいリーダー、あるいは新しい運営などが求められているのでしょう。

ただ、音楽を通じてコミュニケーション出来るというのは、いつの時代でも変わらないと思うんです。むしろ、IT化が進む時代だからこそ、人と人とを正しく結びつけるツールとして、音楽価値が再認識されるのではないかと思います。そういうことからいっても、この才能教育を一つの幼児教育のメソッドとして、再構築していく、新しい流れにしていくというのは、私たち新しい理事を含め才能教育関係者に課せられた重要な課題だと思います。

横瀬 私は父が才能教育の指導者だったということはあるのですが、私自身は才能教育で指導を受けたわけではありません。ただ、アマチュアとしてバイオリンはずっと続けてきました。ですから、才能教育をいわば外から見ているわけで、この視点でこれからの運動についていろいろとご意見を申し上げるとい

中嶋 外国の方から「スズキメソッドとは何か」ということをよく質問されます。これは私なりの解釈ですがメソッド、つまり技法として「暗記と反復」だと答えているんです。しかし、スズキメソッドは相手にある種の集団主義的、あるいは画一主義的なイメージを与えてしまいがちですね。この問題をどう考えていくのかということが一つあるでしょう。音楽とは元々とても個性的なものです。それを大衆化する、あるいは幼児教育を集団化するということに、外部からの批判があると思います。

豊田 今、中嶋先生の仰ったことを、最近雑誌で書いたのですが、みんなが一緒に同じことをする。要するに、グランドコンサートでやっている斉奏ですね。これをどう捉えるかは、自分でも長年の課題であったのですが、最近、一つの答えが見えてきたんです。斉奏を同じ曲を同じ人間が同じような感性でやると考えては意味がないと思います。ただ、人が増えるだけでいいというのであれば、今のハイテクを使っていくだけでも増幅が可能だと思うんです。しかし、増幅した人工的な音と実際に大勢の人が演奏する音とは根本的に違っているのですよ。百

に素晴らしいと考えるようになりました。

給田 スズキメソッドのことを外国人の方と話していると、没個性で猿回しのように芸を教え込んでいる、みんなが同じことをやっているという批判をされます。それに対して私が言うのは「これが才能教育のファイナルの姿だと見られるからそういう批判が出てくるのだと思います。確かに、三千人のグランドコンサートにはショー的な要素があるのかも知れない。でも、あそこで弾いている子供たちの顔を見てください。本当に楽しそうなんですよ。大勢の仲間と演奏するという楽しさを十分に感じているんですね。これが、バイオリンの奏者になり、オーケストラや室内楽につながっていく。それは、才能教育のファイナルではなく、共に演奏するつまりアンサンブルの楽しさを感じているきっかけだと私は思うんです。

中嶋 もう一つあげるならば「暗記・反復」に対する批判もあるでしょう。でも、どんな学問でも古典をきちんと学んで習得することが大切じゃないですか。つまり、ある種の模写が大切なわけですから、モーツァルトならモーツァルトをきちんと写



豊田耕児 (とよだこうじ) 先生

1933年生まれ。バイオリン奏者、指揮者。幼少より鈴木鎮一先生に師事。パリ高等音楽院卒。ライン室内楽団、ベルリン放送交響楽団第一コンサートマスターを歴任。20年間ベルリン国立芸術大教授を務める。国際スズキメソッド音楽院校長。社団法人才能教育研究会会長。



給田英哉 (たいたひでや) 先生

1938年生まれ。才能教育第一回卒業生。東大卒。大学時代は東京大学オーケストラ コンサートマスター。現在、丸交響楽団第一コンサートマスターを歴任。平成11年から社団法人才能教育研究会理事に就任。



中嶋嶺雄 (なかじまみねお) 先生

1936年生まれ。松本音楽院一期生。東京大学大学院卒。社会学博士。専門は国際関係論・中国アジア研究。東京外国語大学学長。国立大学協会副会長。アジア太平洋大学交流機構事務総長。社団法人才能教育研究会常任理事。



横瀬庄次 (よこせしょうじ) 先生

1937年生まれ。東大卒。元文部省生涯学習局長、元文化庁次長。現新国立劇場運営財団常務理事。社団法人才能教育研究会理事に就任。大学在学中、東京大学オーケストラでヴィオラの首席を弾いていた。



小林庸男 (こばやしつねお) 先生

1955年生まれ。慶応大美学科卒。才能教育音楽学校卒業。才能教育研究会指導者。現在3歳から大人まで数多くの生徒を指導。才能教育研究会教育部役員に就任。今回の座談会では進行役を務めています。



上にあげられているだけではダメだと思うんです。今、世界は急速に変化しつつあります。そういった環境の中で、才能教育がどういふふうに対応して次のステップを刻むかが一番の課題でしょう。音の世界を追求し、音楽を通じて心を育てるといふ教育運動、才能教育の持つ二つの側面をどういふふうに、これからの時代に対応させるかについては十分検討が必要かと思っています。

給田 才能教育というのは、偉大な鈴木鎮一先生の哲学というか、人生観、教育観というもので始まりました。戦後、食糧事情がまだ充分でないときでしたが、人々は平和になるにつれ、文化、音楽という心の糧になるものを渴望していたと思うんです。それが鈴木先生のあの情熱とかみ合って、急速に日本に展開し、さらにその勢いをかって世界に伸びていったわけですね。ところが、21世紀を迎える今、社会が成熟してきて、

うのが私の役目だろうと思っております。スズキメソッドは、音楽を通して美しい心を養うということと、それを表現する技術、その両面の教育を目的にやっていたらいい。それはとても素晴らしいことです。ぜひ、ここの卒業生が日本の、あるいは世界の器楽界で大いに栄えていただきたいというのが私の念願で、それが21世紀の新しい流れの一つでもあるかと思っています。

幼児期の音楽教育

暗記と反復は音楽への入口
斉奏は個性の集まり

小林 これからのスズキメソッドの方向性に話題が移る前に、まず今現在、海外等で一般的にスズキメソッドが誤解されやすい点についてご意見を伺いたいのですが。

人が実際に演奏した音は素晴らしい。ちゃんと百人分の音になっているんです。同じ曲を同じように演奏したからといって、個性が死んでいるわけではない。これは個性の集まりなのです。全国大会で演奏する子供たちを見ていると、一人一人が喜びを持っている。これが音となって、もう本当に壮絶な音になっているのです。

私も以前は斉奏に反対でした。個性を殺すという意味で批判的だったのです。でも、その考えが変わった。水を例えにするならば、増幅した音は何の混じり気もない蒸留水です。でも、斉奏は泉の水なんですよ。さまざまなミネラルやさまざまな要素が溶け合って、本当においしい味がします。これと同じで、斉奏もたくさんの個性が集まるからこそ、同じ音でも素晴らしいものに仕上がってくる。みんなで弾くことによって、子供たちがこの音というものを体験し、刺激と勇気を得られるならば本

すこと。そのきちんとした基礎教育があってこそ、それぞれが力をつけ、今度は奔放に自分のオリジナリティを持つことができるのです。始めから、簡単に個性というものはあらわれてこないのですよ。

豊田 言葉の世界でも親から学び、国の古典から学んで、次の世界が生まれてくる。これについては、音楽も同じことだと思いますね。特に、バッハは、必ず自分が尊敬する人、例えばビバルディの曲を一曲弾いた後に自分の曲に移っていくというんです。そこから、また新しいインスピレーションを得るのです。彼は、幼少の頃に、月の光で音楽をコピーしたために、後年目を悪くしてしまうのですが、それくらい過去のもを吸収していたんです。その吸収する力が、同時に自分を生む力になっていったんじゃないでしょうか。

音楽の持つ力

音楽は世界共通の言語 コミュニケーション・ツールに

小林 横瀬先生以外の理事の先生方は直接鈴木先生に指導を受けられた、スズキメソッドのOB。また、横瀬先生はお父様がスズキの指導者であられた。それぞれ、どんな体験があり、それが今のご自分にどう生きていますとお考えでしょうか。

給田 私たち子供の頃を考えてみますと、大変シンプルライフでしたね。だからでしょうか、学校以外にバイオリンのおけいこをするとか、週一回のレッスンを受けるということは、私にとってはとても重要な位置を占めていました。とにかく、バイオリンを弾くことが嫌だと思ったことがなかったですね。楽しくレッスンを受けていました。子供心に覚えているには、例えば、鈴木先生は、バイオリンを弾きながら隣のひとと会話してみなさいという。また、歩きながら弾いてごらんという。とにかく、普通から見たら邪道のようなことをレッスンに取り入れられていましたね。一見遊びみたいですが、今考えると、あれは子供の持っている能力の可能性を開いてくださっていたのではないのでしょうか。

豊田 子供の心理というものをよくご存じでしたね。子供が夢中になる意欲づくりというのがお上手でした。

給田 今の子供たちは、テレビはある、ゲームはあると、多様でとにかく忙しいですね。だから、音楽といい出会いがあっていい先生に恵まれたとしても、他のことにわずらわされずに続けていくのはとても難しいのかなあと感じます。そういう環境の変化というのは無視できないでしょうね。

中嶋 私は給田さんよりちょっと年上で、ちょうど小学校の高学年に松本音楽院に入ったんです。やがて、中学に進むと、陸上競技、県展への出品、生徒会活動とさっき仰ったように、多様なことがいろいろ出てきます。でも、そんな中でバイオリンは続けてきました。自分にとって魅力があったんでしょうね。今振り返ってみると、私は上手ではないけれども、それを続けてきたことが人生の糧になっているんです。今でも、結構頻繁にバイオリンを弾きます。あるいは、アンサンブルをしたり。とにかく、とても楽しいんです。また、人と出会ったときに、音楽はとてもいいきっかけを作ってくれたりもします。特に、国際交流では大きな意味を持ちますね。外国の方々は、いろいろな趣味を持っておられます。そういうときに、音楽の話がお互い



きると、ただ仕事のつながりという以上に、会話が弾むような気がします。

給田 私はビジネスマンですから、それこそ本当にいろいろな人と出会うわけです。でもその中で、生涯の友達、五年会わなくても会ったときに、もう昨日の続きのように話が出来る人というのは、不思議なことに全部音楽がバックグラウンドにあります。つまり、音楽というものがどれだけ人を結び付けるかということなんです。もし、私がバイオリンをやってなかったら、今の人生は全く違ったものになっていたでしょうね。それくらい音楽はコミュニケーションのツールに、こんなすごいものはないと痛感しているんですよ。

横瀬 確かに仰るとおりですね。私も現在東京大学オーケストラの年度の幹事をやっているのですが、その仕事で当時の仲間に出会う機会が多いのです。ところが、何年いや何十年間空いていようと、本当に即座に今まで何べんも会ったような話し方が出来るわけですよ。給田さんもその一人なんです。そういう点では音楽をやっている仲間というのは、他の関係よりはずっと深い気がします。

小林 言葉は違うかも知れませんが、音楽はもう一つの言語であると。世界共通の本当にグローバルな言葉として存在するんでしょうね。

豊田 表現が直接的だし、音楽が持つ力というのは、スピリットの部分に働きかけますからね。よく口短調ミサを歌いながら泥棒をする人はいないと言われるんですが、あの音楽を体験したならば、今日起こっているような三面記事を賑わすような出来事は起きなくなるのではと私はひそかに思っているんです。音楽を知ることによって、バッハやモーツァルトを知ることによって、その人の人格が変わってくる。これこそ、鈴木先生の仰っていた音が人を作るということ、そのものなんだろうと思いますね。

親の役割とは

生活の中で音楽と親しみ 心を育てる環境づくりを

小林 ところで理事の方々は一人的保護者としてどのようにこの才能教育をとらえていらっしゃるのか、そのあたりのお話をうかがいたいのですが…。

給田 私の子供は、残念ながら挫折してしまっただけです。私はス

ズキメソッドにこだわらないにしても、自分の子供たちとアンサンブルが出来たらいいと思っていました。専門家になってもらおうとまでは思っていなかったんですが、イギリスにいたときに、娘や息子が楽器をやっていたときには、内心「いいぞ、いいぞ」と思っていました。でも、さっきも触れた今の子供たちの環境なんですね。日本に帰ってきたら、ほとんどやらなくなってしまいました。娘はバイオリンの小品くらいは弾けますけども、息子の方は完全に中断したんです。ただ、彼は今銀行員でとても忙しいんですが、チェロをそのうちやろうと思っているらしいんですよ。やはり小学校のときに、イギリスでオーケストラをやっていた、そのときの印象が強く残っているらしいんです。でも、我が家のケースは、一つの典型だと思います。彼らが音楽が好きじゃなかったわけではなく、今の子供たちには受験やその他多くの関心事がありすぎます。ですから、本人がよほど好きか、あるいは親が熱心でないと続かないのかなあと思うのですが…。

中嶋 うちも一応音楽はやっているのですが、そんなに上手じゃないんです。どうも、親があまり期待しすぎたのもよくなかったんじゃないかと思っています。バイオリン、ビオラ、チェロ、フルートそれにピアノとまあ、一応、簡単な曲くらいは家族でアンサンブル出来るんですが。今でも、ときどきは付き合っています。

豊田 それは素晴らしいですね。まずは生活の中で、音楽と親しみ、心を豊かにするというのが鈴木先生が一番望んでおられたことではないかと思っています。プロを目指すというのは二の



次ですね。ですから、決してそれは挫折ではない、本当の意味の音楽を身につけていってほしいと思いますよ。

横瀬 私の子どもも小さいときにピアノをやっていました。妻がピアノをやっていたので、無理にやらせたんです。だからやめちゃったわけですが、中学、高校になって、一人はまたピアノを始めましたし、一人はギターを始めました。結局、音楽をもう一回自分からやりだして、今はちゃんと自分の趣味にしていますね。決してプロではないけれど、自分の楽しみ、人生の楽しみをしています。だから、子供のときにやらせたのは非常に役に立ったと思います。音というものの美しさを体験したわけですよ。

給田 鈴木先生はよく「いい音楽を聞きなさい」と仰っていました。要するに、親の必要なことというのは、そういう環境を子

供に自然に与えてあげることなんですね。そのうちに、子供の方は自然に楽器に触りたくなる。子供の心の中に自然に育ってくる本質を先生は見抜いておられたんですね。教育の原点というのは、じっくりと自然に音楽に興味を持たせる環境を整えるということでしょう。そういう意味では、母親の役割がいかに大切かということも訴え続けられたんですね。

豊田 今という時代を考えると、母親と子供が共に過ごす時間が減っていることが気になります。ただ、音楽に触れさせるというだけでなく、親子のふれあいという、才能教育はさまざまな場を提供していると思います。

指導者に期待するもの

子供とともに母親への 指導や応援も大切に

給田 そういう意味では、スズキメソッドの指導者の役割というのは、大変大きいものとなります。事の本質を見誤らないような話がたえず生徒の親と出来なくてはいけない。私が子供の頃のことを思い出しますと、鈴木先生は私の母親とよく話をしていました。ですから、母親はかなり感化を受けていたでしょうね。私は今の指導者の方々を知らないのですが、親御さんを納得させられるメッセージがどれだけ発せられるかというのが大切なんじゃないでしょうか。そうでないと単なるバイオリンの指導者に過ぎなくなってしまうし、そういう人というのは世の中にたくさんいますから。スズキメソッドの指導者はどこが違うのかというあたりが、今後才能教育運動再興のカギになってくるでしょうね。

中嶋 その意味からもスズキの指導者の役割はすごく重要です。指導者が母親と共に、その子の可能性をどういうふうに関心させるのか。才能教育の大きな目的は幼児の情操教育なんです。子供の頃からクラシックに親しみ、それが同時に人生の喜びになり、自分を表現する喜びにつながっていくという…。スズキの指導者は、この教育という至宝を持っているわけです。ですから、幼児教育ということにしっかり視点を置いて、バイオリンの先生が単なる音楽教師ではないということを感じていただきたいですね。

横瀬 今のお話を聞いていると、母親に対する関与がとても大切だというのはよくわかります。その母親に対する指導や支援が客観的にメソッドとしてまとめられたら素晴らしいですね。あまりまとめすぎると、ただのマニュアルになってしまうでしょうが。

豊田 そうですね。鈴木先生はさまざまなヒントを持っていらっしゃいました。それを、指導者が発展させていく。親が発展させていく。子供も一緒になって発展させていく。それこそが、スズキメソッドのメソッドたる所だと思います。現場の指導者もたくさんヒントをお持ちでしょうから、それをうまく合わせると、素晴らしい本当の意味でのマニュアルが出来てくるかと思っています。それが、これからの仕事の一つでもありますね。





3000人の子供たちによるクラシックコンサート クライマックスは全員合奏で感動のフィナーレ





皆さん、ようこそ、グランドコンサートへ。 Welcome to our Grand Concert today.



才能教育研究会 会長
豊田 耕兒
KOJI TOYODA
President,
Talent Education Research Institute

グランドコンサートで毎回、毎年、大きな感動を受けるのは、お子さん達の輝いた眼(まなこ)です。

人間は子供といわず大人といわず全身全霊を傾けて物事に携わっている時が一番尊い——、一番美しい——。それがバッハの音楽、モーツァルトの音楽に共鳴を感じている瞬間だとしたら、人間にとってこれ以上の幸せはないでしょう。そして、それが子供の時から——、生まれた時から——。

鈴木先生、本当にありがとうございました。今年も皆で一緒にこの喜びを歌いましょう。

What I am impressed most at the Grand Concert every time, every year is the energetic look of the children.

People shines most preciously and most beautifully when they are engaged in something with all their heart and mind and strength, no matter how old or how young they are. What a bliss if the shining moment aroused to us in sympathy with the music by Bach and Mozart. Much greater when we could experience it from our early days in life... even from the birth.

Thank you indeed, Dr. Suzuki! And let us sing together for this great happiness this year again.



名誉大会委員長
ヴァルトラウト 鈴木
Waltraud Suzuki
Honorary Chairperson
of the Grand Concert

毎年楽しく聴いてきたすばらしいスズキチルドレンのグランドコンサートを、今年もまたお楽しみください。今日はようこそおいでくださいました。

Again today we will enjoy the wonderful Suzuki children's Grand Concert as we have for many years. Thank you for joining us.



世界に発信するスズキメソッド



大会委員長
中嶋 嶺雄
Mineo Nakajima
Chairman
of the Grand Concert

新しい世紀を目前にして、世界は大きく変わりつつあります。日本の国際的な役割も、これまで以上に重要なものになるでしょう。そうした中で、日本に求められている課題は、まず第一に、知的な国際貢献ではないかと私は思います。国際交流が進み、世界が一つに結ばれるようになればなるほど、文化や文明の違いを越えて意味のある普遍的な価値が求められるようになるのだといえましょう。この場合、子供たちが音楽を通じて世界をつなぐのだという鈴木鎮一先生の哲学こそ、歴史的な意義をもっているといえるでしょう。このグランドコンサートは、もう46回

目ですが、わが国がヨーロッパから受信したクラシック音楽を、スズキメソッドという日本的な創造の場を経て、世界に発信しつづけたという点で、大いに誇り得る国民的なイベントだといっても過言ではないでしょう。世界各国・各地域から、そして日本全国から、四千人もが松本市に集まった昨年の世界大会の成功を引き継いで、新たに豊田耕兒先生を才能教育研究会会長に迎えた本大会には、さらに大きな期待が寄せられているのです。皆さん、大いに頑張ってください。

Suzuki's Message to the World

Now that the new century is just around the corner, we are witnessing the world in a dramatic change. Here the primal task set to Japan, I think, is the intellectual contribution to the world. The more cultural exchanges are made and countries become closer, the more the need for universal values which can be applied to every member of the world grows. Dr. Shinichi Suzuki developed his philosophy that children unite the world with music, and it seems to suggest a great historical meaning to us today.

We cannot be too proud of holding the 46th Grand Concert as a

national event; we have been performing the art of the classical music which was born in Europe and developed in Japanese way of creation at the Suzuki Method. Taking the baton of the achievement in the last year's World Convention in Matsumoto-city, where over 4,000 people gathered from various regions of the world, the Grand Concert this year is expected an even wider success. We also have the new president of T.E.R.I., Prof. Koji Toyoda, this time. Everyone, please enjoy yourself and try your best! Let the concert be another monumental event.

輝け、21世紀の主役たち



グランドコンサート実行委員長
印田 礼二
Reiji Inada
Chairman
of the Grand Concert Committee

第46回グランドコンサートによるこそお越し下さいました。

本日は、スズキメソッドで10年、15年と勉強してきた高校生、大学生の大勢の生徒が、豊田先生指揮のオーケストラ「後宮よりの逃走」序曲(モーツァルト)、オーケストラ伴奏のメンデルスゾーン協奏曲を演奏いたします。

小さい時からバッハ、モーツァルトを聴いて育った彼らが音楽を通して、技術以上のこと——努力すること、続けること、素晴らしい仲間と心を通わせ、ひとつのものを作り上げること等々——

を身につけた姿です。そこに21世紀の子供たちのあるべき姿を感じ頂けることと思います。

上手になることは、目標であり目的ではありません。「立派な人間に」「世界中の子供たちを幸せに」と全生涯を捧げられた鈴木鎮一先生の教育法(スズキメソッド)が、世界中のあらゆる場所で行われれば、21世紀は本当に輝かしい時代となることでしょう。そしてその主役が今日ここで演奏する子供たちであることを願ってやみません。

本日は、ありがとうございました。

You're the Brightest Stars of the 21st Century!

We would like to thank you all for coming over to our 46th Grand Concert.

Today, we have a large number of high-school and university students, who have been learning at the Suzuki Method for over ten to fifteen years, here to play a prelude to an orchestra "Overture from Die Entführung aus dem Serail" by Mozart, conducted by Mr. Toyoda and a concerto by Mendelssohn to an orchestra accompaniment.

I believe you see an achievement in something more than a technique; the pleasure of making efforts, keeping up doing it and building up something in cooperation with your friends through musical activities. This is a result of what they gained from Bach,

Mozart and other great composers they have been familiar to since their childhood. This is what children should be in the 21st century.

Advancement is not a purpose but an aim. "Be a good man." "For the happiness of all children." Dr. Sinichi Suzuki devoted his life into education in his original way. The practice in the Suzuki Method will bring us the next century of great promise. I wish the children who perform here today be the leaders, the brightest stars on the coming stage.

Thank you very much.



The 48th GRADUATION CEREMONY

第48回 卒業式 午後1時

CONGRATULATIONS

ご卒業おめでとうございます

2000年3月27日(月) 日本武道館

演奏 正派邦楽会 箏の皆様
Koto Performance by Seiha Hogakukai

六段の調べ 八橋検校
Rokudan no shirabe Kengyo Yatsushashi

松籟譜 中島雅楽之都
Shoraifu Utashito Nakashima

御挨拶 大会委員長 中嶋 嶺雄
Opening Address Dr. Mineo Nakajima, Chairman of the Grand Concert

御挨拶 会長 豊田 耕兒
Greeting President Koji Toyoda

卒業証書授与 会長 豊田 耕兒
Presentation of Certificates President Koji Toyoda

卒業演奏 平成11年度卒業生
「合唱」ユダスマカベウスから Graduates
Performance of the graduation
[Chorus] from "Judas Maccabaeus"



The 46th SUZUKI METHOD GRAND CONCERT

第46回 スズキメソッド グランドコンサート 午後2時

- バイオリン演奏 (オーケストラ伴奏) バイオリン協奏曲 ホ短調 第3楽章 メンデルスゾーン
Violin with Orchestra accompaniment Concerto in E minor, 3rd mov. Mendelssohn
- ピアノ演奏 2台のピアノのためのソナタ ニ長調 K.448 第3楽章 モーツァルト
Piano Sonata for Two Pianos in D K.448 3rd mov. W.A.Mozart
- フルート演奏 2本のフルートのための協奏曲 第3楽章 チマローザ
Flute Concerto for Two Flutes 3rd mov. D.Cimarosa
- チェロ演奏 チェロ協奏曲 ハ長調 第1楽章 ハイドン
Cello Concerto in C 1st mov. F.J.Haydn
- オーケストラ 「後宮よりの逃走」序曲 モーツァルト
Orchestra Overture from "Die Entführung aus dem Serai" W.A.Mozart
- 箏とバイオリンの合奏 春の海 宮城 道雄
Koto and Violin Haru no Umi Michio Miyagi
- チェロ斉奏 白鳥 サン・サーンス
Cello The Swan Saint-Saëns
- スケルツォ ウェブスター
..... Scherzo C.Webster
- リゴードン パーセル
..... Rigaudon H.Purcell
- こぎつね・フランス民謡 外国民謡
..... Song of the Wind .French Folk Song. Folk Song
- バイオリン斉奏 ソナタ 短調 第1,2楽章 エクレス
Violin Sonata in G minor 1st,2nd mov. H.Eccless
- アレグロ フィオッコ
..... Allegro G.H.Fiocco
- フルート斉奏 葦笛の踊り チャイコフスキー
Flute Tanz des Militons from Nutcracker Suite P.I.Tchaikovsky
- ユーモレスク ドボルザーク
..... Humoresque A.Dvořák
- ロングロングアゴー ベーリー
..... Long,Long Ago T.H.Bayly
- アマリリス ギス
..... Amaryllis Ghys
- 弦楽合奏 バイオリン協奏曲 イ短調 第1楽章 ビバルディ
Strings Ensemble Concerto in A minor, 1st mov. A.Vivaldi
- 全科による合奏 ガボット マルティーニ
Violin Gavotte P.Martini
- 狩人の合唱 ウェーバー
Cello Hunter's Chorus C.M.v.Weber
- メヌエット No.2 バッハ
Flute Minuet No.2 J.S.Bach
- アレグロ・無窮動 鈴木 鎮一
Piano Allegro.Perpetual Motion Shinichi Suzuki
- キラキラ星変奏曲 鈴木 鎮一
Variation on "Twinkle Twinkle little Star" Shinichi Suzuki



曲目解説
きょくもくかいせつ

Violin
バイオリン

「バイオリン協奏曲 ホ短調 作品64 第3楽章」メンデルスゾーン

数多いバイオリン協奏曲の中で優美な魅力をそなえた曲として有名です。ライプツヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の指揮者だったメンデルスゾーンがコンサートマスターで親友のフェルディナンド・ダヴィッドのために1844年に作曲しました。

第2楽章、中間部のメロディーを用いた序奏のあと、きらびやかな技巧の限りをつくしたアレグロモルト・ヴィヴァーチェの主部に入り、明るい高まりのうちに全曲を閉じます。グランドコンサートでは初めてのオーケストラ伴奏での斉奏です。

Orchestra
オーケストラ

「『後宮よりの逃走』序曲 K.384」モーツァルト

オペラ『後宮よりの逃走』は未来の妻コンスタンツェに結婚の贈り物として若きモーツァルトが作曲した作品です。トルコ的なエキゾチックな雰囲気をつかち、効果的に使っています。特に序曲が始まって9小節目に突然鳴り響く「トルコ調」は軍楽隊の音楽を模倣したものでシンバル、ドラム、トライアングル、ピッコロなどの楽器がその異国調を作り出しています。指導曲集9巻のバイオリン協奏曲の「トルコ風」もこの異国の音楽を題材として作られました。

オペラは作曲当時のモーツァルトの幸福感を反映した、魅力とユーモアに満ちた傑作で、序曲もそうした気分を十分につたえています。上級生の演奏、豊田先生の指揮でお楽しみ下さい。

Piano
ピアノ

「2台のピアノのためのソナタ 二長調 K.448 第3楽章」モーツァルト

モーツァルトが25才の時に書いた、この2台のピアノのためのソナタは、鈴木鎮一先生とも交遊があり、科学者、そしてモーツァルト研究者として有名なA.アインシュタインが「比類なき傑作」と評した名曲です。

ピアノという楽器の特性が最大限に生かされており、明るい生気のみならず、華やかな曲に仕上がっています。

Flute
フルート

「2本のフルートのための協奏曲 第3楽章」チマローザ

チマローザは、大バッハが亡くなった前年の1794年にナポリ近郊のレンガ職人の息子として生まれました。モーツァルトと同時代の人です。貧しい境遇を克服し、ロシア宮廷楽長、ナポリ宮廷楽長を歴任しました。機知にあふれた豊かな旋律、陽気さが特徴です。

スズキメソッドのフルート科では、新しく開発された軽量の幼児用フルートがすっかり定着し、3歳からのレッスンがさらに楽しくなりました。最前列で一生けんめい演奏している小さな子供たちの表情もごらん下さい。

「ユーモレスク」ドボルザーク

ドボルザークは、1894年に8曲からなるピアノ曲集(Op.101)を作曲しました。その第7曲目のユーモレスクは、バイオリン用に編曲され特に有名です。今日はフルートで演奏します。ユーモレスクというのは、ユーモアのある、面白いのある曲という意味で、シューマンのユーモレスクはピアノの大曲です。



Cello
チェロ

「チェロ協奏曲 ハ長調 第1楽章」ハイドン

この曲は1961年にブラハ国立博物館の蔵書の中から発見されました。それ以来、チェリストにとって大切なレパートリーに加えられ、多くの演奏家達が名演奏を聴かせてくれています。明快で、そして健康的。子供たちのはつらつとした演奏が魅力です。

「白鳥」サン・サーンスと「スケルツォ」ウェブスター

チェロと言えばこの「白鳥」を連想される方も多いようです。白鳥の姿のイメージとチェロの音色のイメージがかさなって絶妙のコンビネーションです。チェロにはこのような優雅な側面と迫力のあるパワフルな側面が同居しています。ウェブスターの「スケルツォ」はどちらかと言えば後者にあたるといえます。リズムに乗ってたくさん弓を動かして演奏いたします。



Strings Ensemble
弦楽合奏

「バイオリン協奏曲 イ短調 第1楽章」ビバルディ

この協奏曲は、ビバルディの代表作で軽快なリズムにのったメロディーが、聴く者をとらえます。バイオリンを習う過程で、誰もが必ず一度は勉強する曲です。そして、広い武道館でこの曲の大合奏に加わることは、幼い生徒の憧れです。

今日は、初めての試みとして、上級生が弦楽のパートを受け持ち、アンサンブルの形式で演奏いたします。



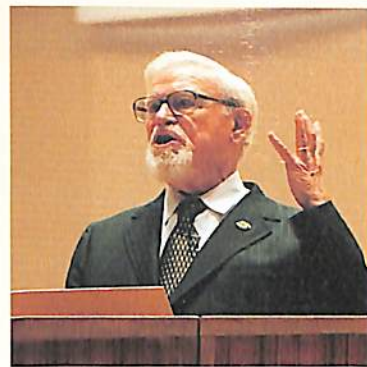


ALBUM

1999

第13回世界大会 3月27日～4月3日

10年ぶりに日本で開催され日頃受けられない外国の先生のユーモアのあるレッスンに生徒たちも大喜び



「穏やかな革命」と題して基調講演をするドーマン博士

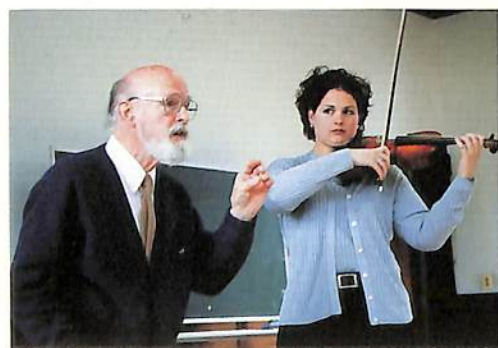


世界のスズキファミリーが集まって楽しいバンケット

別れを惜しんで一生懸命弾いています。お別れコンサート



第13回スズキ・メソッド世界大会
The 13th Suzuki Method World Convention



アメリカスズキメソッドのバイオリン。ケンドール先生とアシスタントのクーバーさん



アメリカのスズキメソッドではギターも盛ん、指導はロンゲイ先生



U字管はもう定番、音も姿勢もすてきになって

The 46th SUZUKI METHOD GRAND CONCERT



国際スズキメソッド音楽院入学式 4月9日

レベル向上又指導法を学ぶための新しい出発点



ピアノ科卒業式

各地盛大に開かれたコンサート
客席はいつも満員

- 東海地区 4月10日
- 関西地区 4月11日
- 関東地区 4月18日
- 沖縄地区 4月25日

第50回夏期学校

7月29日～8月2日



暑い日射しの中、市民会館前にぎわい

第21回ピアノ科夏期学校

8月2日～8月5日



「基本が大切」と熱心に指導する東先生



夏期学校でしか味わえない毎年恒例の大会奏
楽しい楽しいグループレッスン

国際音楽の日フェスティバル 10月3日 スズキメソッドのこどもたちによるコンサート



世界の人を音楽でつなぐ心の輪をモットーに開かれているこの大会、スズキの大合奏も世界へ届け

スズキデー記念ピアノコンサート

甲信地区 10月17日 関西地区 11月7日
 沖縄地区 10月23日 東海地区 11月14日
 関東地区 11月7日



二台のピアノの音がホールいっぱい響きわたったコンサート(東京国際フォーラム)



おけいこを始めたばかりの生徒によるキラキラ星リズム奏(沖縄・パレット劇場)



5台のピアノによるみごとな演奏(愛知芸術劇場)

2000年スケジュール

ピアノ科卒業式

甲信地区 3月19日(日) 才能教育会館
 沖縄地区 3月20日(祝) 具志川市民劇場
 関東地区 3月29日(水) 中野サンプラザ
 関西地区 3月30日(木) 大阪厚生年金会館
 東海地区 3月31日(金) 愛知県芸術劇場

第10回幼児の能力コンサート

甲信地区 4月 9日(木) 松本市音楽文化ホール

第3回スズキチルドレン・スペシャルピアノコンサート

4月22日(土) 名古屋 電気文化会館

全国指導者研究大会

5月22日(月)~5月25日(木) グランドホテル浜松

ピアノ研究グループ講師研究会

5月25日(木)~5月26日(金) グランドホテル浜松

第51回夏期学校

8月 1日(火)~8月 4日(金) 松本

第22回ピアノ科夏期学校

8月 1日(火)~8月 4日(金) 松本

スズキデー記念ピアノ科コンサート

甲信地区 10月15日(日) 下諏訪総合文化センター
 関東地区 11月12日(日) 東京国際フォーラム
 関西地区 11月12日(日) 大阪厚生年金会館
 東海地区 11月12日(日) 福井県立音楽堂
 沖縄地区 未定 未定

I.S.A.(国際スズキ協会)からのお願い

ご家庭に眠っている楽器をおくってください。

「どの子も育つ、育て方ひとつ」がスズキメソッドの根本の大きな柱であれば「人は環境の子なり」も同じく、そのひとつであります。現在、残念なことです、スズキメソッドを自国の子供たちの教育へ取り入れたくても、社会的な経済基盤が弱いために、実現できない国があります。そこで、このような国々の環境づくりに、使われていない分数楽器を役立てることを、グランドコンサート出演者へ呼び掛けています。本日、この日本武道館の会場に集められました各家庭に眠っていた楽器は、国際スズキ協会の手で修理を行ない、海外の国々へ送られます。再び幼い子供たちと一緒に音楽を奏することは、楽器にとっても喜びとなるでしょう。



"We need your used instruments!"

In the Suzuki Method, "Man is a son of his environment" is as basic a philosophy as "Every Child can be educated". Regrettably, at present there are many developing countries where they cannot adopt



the Suzuki Method under their present economic conditions. Therefore we are appealing to today's participants to donate their used instruments for the children in such countries. ISA will check and repair the instruments and send them out to the countries in need.

We are looking forward to welcoming the children with those instruments and enjoying a marvelous ensemble together in the future.

I.S.A.(国際スズキ協会) 協力(株)伊藤楽器

●コンサートスタッフ

名誉大会委員長	ヴァルトラウト鈴木	司会	安東 弘樹 (TBSアナウンサー)
大会委員長	中嶋 嶺雄	アナウンサー	山澤 敦子 西原美智子 相知美和子
大会副委員長	山田 裕子 給田 英哉	ピアノ伴奏	石川 咲子 ビカリ直美
実行委員会		賛助出演(箏)	正派邦楽会 総裁・家元 中島 靖子
<委員長>	印田 礼二	編集・印刷	(株)工業社 (桑名) 03-3465-4855
<副委員長>	佐々木弘明 千田 成子		(株)電算印刷 (高山) 03-3294-8094
<委員>	安達 美和 油 さよ子 荒木千香子	音響設営	(株)イーストウエーブ (今岡) 03-3381-6226
	石戸 寛子 上野日出子 小川 恵美	会場設営	(株)ムラヤマ (斉藤) 03-3813-1204
	小川みよ子 後藤 裕乃 清水 尚志	照明設営	(株)共立 (志村) 03-3469-1502
	土屋 育代 中陳 伸子 名取 由佳	ビデオ撮影	E&Hプランニング (岡) 03-3706-5376
	早川 薫 藤井 美和 松永 朋子	フラワーデザイン	(株)国際フローリストトーキョー 03-3708-8700
	山澤 敦子	翻訳	松本 駒子
	(社)才能教育研究会 東京事務所	楽器提供・運搬	上杉 裕之 (世田谷楽友協会 世田谷交響楽団)
関東地区支部長会			
<幹事長>	山本 和人		
<幹事>	平岩 恵子 大西 裕之 大川富美子		
	荒木 紀子 小野美智代 後藤 芳子		
	佐藤 史子 柿沼 邦 吉田とも枝		

●事務所所在地

社団法人 才能教育研究会	本部	〒390-0815 長野県松本市深志3-10-3	0263-32-7171
	東京事務所	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3 駿河台スカイビル3F	03-3295-0270
	東海事務所	〒461-0005 名古屋市東区東桜1-10-3 則武ビル 6F	052-951-1352

